

# 大塚ホールディングス株式会社

## 2020年度 第2四半期決算

### 質疑応答要旨

2020年8月7日

Q1: 健康に貢献するための取り組みをニューノーマルでさらに加速するとの発表があったが、今回の環境変化を踏まえて、世の中に提供できる価値として新たに取り組んでいることがあるか？

A1: 当社グループは、医療関連事業とニュートラシューティカルズ（以下NC）関連事業を両輪としてビジネスを行っており、病気の方の治療だけでなく、健康な方の健康維持・増進に貢献するトータルヘルスケアを提供している。新型コロナウイルス感染拡大（以下、コロナ禍）という予測できない状況の中、当社としては、通常健康を維持することが、リスクの軽減や予防に繋がると考えている。また働き方としては、グローバルでのウェブサイトを使用したミーティングやITを活用した臨床開発の効率化を以前より推進していた。つまり、これらは全く新しい価値の創造や働き方の改革ではなく、以前から取り組みを始めていたことであり、それが現在の状況下において、効果や実績として顕在化している。また、日本のみならず海外でも、地域との連携活動を進めており、その中では全く新しいアイデアやプログラムを提供できると考えている。

Q2: グローバル4製品を含めた医療関連製品について、現在の卸や薬局など顧客側での在庫水準は？

A2: 2020年度第1四半期では、一時的に卸や薬局に在庫の積み上げが見られたが、6月には適正な状態に戻っている。

Q3: グローバル4製品の状況は？

A3: 米国においては2020年6月よりMRの営業活動が再開された。エビリファイメンテナの新規処方箋数は、5月中旬よりコロナ禍前の1月・2月の状態に回復してきた。総処方箋数についてもコロナ禍前の状態に戻ってきている。レキサルティの新規処方箋数は、以前の半分まで回復してきており、総処方箋数で見ると、3月から7月は回復傾向にある。米国ジニアークは、患者様のアクセスサポートのプログラムを新しく提供している。新しく治療を開始した患者数は2020年4月から6月において約120例/月（2020年1月から3月は約200例/月）と減少しているが、アドヒアランスが向上し、計画を達成している。ロンサーフは主に米国で計画を上回って順調に推移している。

Q4: 機能性飲料等については減収、サプリメントは増収の実績であるが、コロナ禍が続く限り、同じような傾向が続くのか？ コロナ禍収束後はどのような状態になるか？

A4: NC関連事業については、健康維持・増進に貢献する製品を提供し続けている。コロナ禍の影響下でも、健康に貢献できる多様な製品を保有していたことが、事業全体として相補しあい、現在の結果に繋がっている。ウィズコロナ、アフターコロナなどで今後環境がどのように変わろうと、その都度、世界の人々に貢献できる製品を提供していきたい。

Q5: 米国のサプリメント市場は伸長していると思うが、ネイチャーメイドの市場シェアはあがっているのか？

A5: ネイチャーメイドは、市場成長率より、売上が伸びており、ブランドシェアが上昇している。ブランドとしての信頼性が、人々に選択頂いている要因と考えている。

Q6: レキサルティのアルツハイマーに伴うアジテーションの3本目のP3試験の結果が出るのが、2020年12月で変更はないか？

A6: コロナ禍で今後も患者エントリーなどが遅延する可能性はある。早期終了を目指して活動を続けている。

Q7: 医療関連事業の通期計画を変更していないことを考慮すると、通期計画は上振れする可能性があるか？

A7: NC関連事業、消費者関連事業、その他事業は、上半期の傾向を考慮し、それぞれ通期の売上収益について、下方修正を行った。医療関連事業は通期の製品別の売上計画を据え置いているが、グローバル4製品について、現在の好調が引き続き継続する場合は、アップサイドとなる。一方、臨床栄養や診断薬は上半期大きな未達となっており、通期としてもダウンサイドの可能性はある。差し引きすると医療関連事業全体では、アップサイドが見込めると考えている。NC関連事業は、通期売上計画を下方修正したものの楽観はしておらず、未達により医療関連事業のアップサイドと相殺される可能性もあると考えている。一方、販管費については戦略的にコントロールが可能であり、ITサービスやシェアドサービスなどで業務効率化を進めさらなる削減を目指したい。

Q8: 米国展開している医療関連製品については、コロナ禍で失業者が増える等の影響で、ペイヤーミックスが変わってしまうことに起因する売上収益のダウンサイドリスクを見込んでいるか？

A8: 医療関連製品の米国展開は、政府の医療政策に大きな影響を受けると考えている。当社としては、現地の状況を鑑み、慎重に計画を立てている。

Q9: TAS-118の P3試験結果の解釈と開発中止の理由は？

A9: P3試験はポジティブであったと考えている。承認申請に向けた準備を進めていたが、申請には、追加試験の必要性ができた。開発期間と事業性の観点から開発中止を決定した。

Q10: グローバル4製品について、2020年6月末には、顧客側の在庫が適正状態に戻ってきているとのことだが、どの程度精査をしているか？

A10: 精査をして、流通・社内在庫含めて適正な状態であると考えている。

Q11: サムスカ/ジンアークについて、ADPKD治療薬としての患者のアドヒアランスや脱落率に関して、日米の違いはあるのか？

A11: 日本と米国ではデータの取り方が違うので、正確に比較することはできない。日本におけるサムスカの使用成績調査（全数調査）の結果では、脱落率は全体の約20%であり、米国ジンアークの脱落率は外部データを用いた調査の結果、日本より高いものの、売上計画の前提としていた社内予測よりは低かった。引き続き患者様の薬剤アクセスのサポートを提供して、治療継続に貢献したい。